

企画書

タイトル：鉄は熱いうちに打て - 最初の一歩からの育児共有

目的・目標

- ・男性の育児は「当たり前」の事である」という認識を、育児初期段階から植え付ける。
- ・男性の育児マインドと育児行動を自然な形で育成。
- ・「育児はデフォルト母親」という社会通念の構造的打破。

現状の問題点

- ・育児最初期段階である産院において、「母親だけに保育指導をして退院」させることで、「育児は母親」の社会通念を増強している。
- ・産前の「両親学級」では、よくて「人形実習」であり、実務教育としてレベルが低い。

社会動向・調査結果

- ・夫婦の家事育児共有状況は、夫の労働時間ではなく妻の労働状況に大きく左右される。(p18 p20 p22)
- ・「意識が高い夫」よりも「必要性のある夫」のほうが家事育児を共有する。(p28)
- ・家事育児行動を取る夫は、その行動に対し肯定的意識をもつ。(p39)

↓
・「意識を変える 行動が変わる」ではなく、「行動せざるを得ない 意識が行動に沿った形に変わる」の傾向あり。

ターゲットユーザ

- ・新生児を持った父親。高揚感と責任感の高まりは行動変容を容易にする。
- ・父親を取りまく、配偶者・祖父母等。産院の専門家という権威者から「男性の育児は当たり前」扱いを受ける事で態度変容をうながす。

企画内容

- 産院における保育指導を、父親にも原則実施。
- ・抱き方、調乳、哺乳(人口乳の場合)、哺乳後ケア、おむつ換えと清拭、入浴(おへその手当を含む)、乳房ケア等、現在産院で実施している保育指導を母親同様父親にも実施。母親と同等の保育能力を付けて退院させることを産院に義務付ける。
- ・父親の面会時間に合わせて実施。(顧客本位体制)
- ・医師/看護婦のサポートにより、男性の育児の重要性和その能力を学習させる。

概算費用(予算)

- ・ファシリティは現行の手洗い場程度で可。
- ・産院のニーズに応じガウン・帽子を準備。
- ・父親の都合にあわせて保育教育実施するための人件費補助。

想定される効果

- ・母親と同等の教育を受ける事で、父親の育児能力と責任感が高まる。
- ・「母親だから自然にできる」のではなく、母親も自分と同じく何も出来ないところから共に出発するのだということが、理屈ではなく体感できる。
- ・育児行動を専門家前で取り励まされる事で、男性の育児行動に対する肯定的態度が育成される。
- ・専門家からの指導があることで、祖父母等の「育児は母親」の固定観念打破の糸口とする。

検討項目

- ・産院は「子供を医学的問題なく退院させる」だけでなく、その後の保育行動への重要な指導機関となる。産院/医療担当者側の意識をどのように改革するか。